

東風



北海道苫小牧東高等学校PTA機関紙第100号記念（令和6年10月）



PTA 会長
後藤 哲人

皆さん、この度、PTA会長に就任いたしました後藤哲人です。ここに、皆さんにご挨拶をさせていただきます。

まず、皆さんが日々の学業や部活動で忙しい毎日を過ごしていることに敬意を表します。部活に熱中し、友人と楽しい時間を過ごすことは、充実した高校生活の一部だと思います。しかし、その忙しさが日常に流されている受動的な過ごし方になっていないか、今一度考えてみてください。どんなに忙しくても、将来のために今から主体的に取り組まなければならないことがあるのです。

では具体的に何をすれば良いのでしょうか。答えは、将来に必要な知識を身につけることです。政治、経済、金融、海外の情勢、先端技術など、普段の学校の勉強とは別に、自分から進んで学ばなければ取得できない知識があります。これらは、将来の職業を考えると、社会人になって働くようになってから必要な知識です。

幸い、調べることは簡単です。インターネットを使えば、必要な情報はすぐに手に入ります。しかし、重要なのはインプットだけでなく、アウトプットもすることです。仲間と楽しい話をするだけでなく、時には将来のためになる話をしてみてはどうでしょうか。例えば、定期的に政治や経済などのテーマを設けて、各自が調べてきたこ

とを話し合うような場を作るのです。最初のうちは面白みを感じることができないかもしれませんが、知識が深まることで興味・関心がわいてきて自ら新聞やニュースを見聞きするようになり、進んで情報を得ようとするようになってきます。それらの知識は将来の職業に役立つだけでなく、社会に出たときに周りよりも有利に立ち回れる力となります。

一例として、将来のために今できること・やるべきことについて提案しました。志の高い生徒が集まっているこの苫小牧東高校で、自分たちの未来のために主体的に取り組んでいきましょう。

PTAとして、皆さんの高校生活がより充実したものになるように全力で協力していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



校 長
澤田 慎也

PTA機関紙「東風」発刊にあたりまして、さらに今号は、区切りよく記念すべき第100号ということで、これまでの培ってきた本校PTAの活動の歴史と実績に改めて感謝し、敬意を表したいと思います。また、PTAの各関係の皆様方におきまして、日ごろから本校の教育活動につきましては、格別の御理解と御協力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

早いもので私も校長として着任し2年目となり、今年度は4月に始まり、夏が過ぎあっという間に半期が過ぎて、後期に入ります。振り返りますと7月初旬には、生徒会行事でも本校最大の行事である学校祭がありました。今年の学祭テーマの「Back East (トゥー) The Future」に照らし合わせ、クラス内での一致協力、団結で各クラス展示や出し物、発表などそれぞれ趣向を凝らし素晴らしい内容でありました。また、学年間においてもお互いの榮譽を認め合い、さらには「盛り上がるべきところは盛り上がる、静かに聴くところは静かに聴く」という場面を目の当たりにし、メリハリがきいて雰囲気も本当に良かったと感じています。

その他、PTAの方々による記念のタオルやお菓子の販売など、そして、今年はどうの提供があり、少し雨模様で肌寒かったため、生徒や一般来客の方々にもとても好評でした。お忙しい中、企画や準備等も含め、関係の皆様、本当にありがとうございました。

さて私事の話で恐縮ですが、過去に石狩管内の高校で一般教員として最後に送り出した生徒たちが、先日、クラス会と称して当時担任であった私の「今年度の退職及び還暦のお祝い」の宴を用意してくれました。その最後の卒業生である教え子たちも37歳になったそうで、数年前に会っていた子もいれば高校卒業以来という子もいて「結婚して子どもが3人います」とか「自由気ままにしているよ」「年収はきっと先生より多いはず」などと話が弾んでいきました。そして、懐かしくも20年近くも前のことを思い出しながら「先生、実はあのとき、ね」などと、当時、聞いてしまったらとんでもないショッキングな話にもびっくりしながらも、楽しくも賑やかな時間がしばし過ぎていきました。その中である子がその時ふと「先生、こんな風に20年もたって教え子と会うというのはどんな気分？」と聞かれ、思わずハッとしながら「教師冥利に尽きるよ、本当にうれいよ」と答えてしまいました。

当時は、SNSと呼ばれるものやスマホなどもなく「働き方改革」「〇ハラ」などの言葉もまだ存在しなかった時代、まさしく自分自身が時間やお金にとらわれず、とにかく無我夢中がむしゃらに教員、担任、部活指導をさせていただいていた頃を思い出しながら、今後行く末の生徒たち、そして先生方にとって、時代の流れには逆らわず、今後できるだけ最善、最高の環境の中で学校教育に携わっていくことを願っています。

終わりになりますが、保護者の皆様を始め、PTA関係の皆様方の本校の御支援、御協力につきまして、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



前 PTA 会長
西村 知行

苦小牧東高校前PTA会長の西村知行です。この度、2年間務めさせていただいたPTA会長を退任することとなりました。ここに退任のご挨拶をさせていただきます。

まずは、在任中にお世話になった皆様に心からの感謝を申し上げます。2年間という期間は短いようでいて、多くの出来事がありました。その中でも特に、コロナウイルスの影響による学校生活の変化は、私たちにとって大きな試練でした。生徒たちは様々な制約の中で学び、部活動に取り組み、それぞれの目標に向かって努力を続けました。その姿に、私は何度も感動し、励まされました。

苦小牧東高校は進学校として、多くの優秀な生徒たちが在籍しています。生徒たちの学業に対する真剣な姿勢や、未来に向けた意欲は、学校全体の活気を生み出していました。私は、そんな生徒たちの支えとなるべく、PTAとしてできる限りのサポートを行ってまいりました。皆さんの協力のおかげで、多くの活動を実現することができましたことを、心から感謝しております。

また、生徒たちの素直さにも感銘を受けました。皆さんが教職員や保護者の指導に対して真摯に耳を傾け、自らの成長に努めていました。この素直さこそが、皆さんの大きな強みであり、将来の飛躍につながると確信しています。

これからも苦小牧東高校が、生徒たちの夢と希望を育む場であり続けることを願ってやみません。新しいPTA会長のもとで、さらなる発展を遂げることを期待しております。最後になりますが、改めて皆様のご支援とご協力に感謝申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

今年度赴任された方を紹介します。

(私)旭川明成高校から採用

国語 佐藤 直也

旭川市から参りました。生徒の皆さんの元気な挨拶、何事にも素直に向き合う姿勢に、日々感銘を受けております。皆さんと共に成長していけるよう、一所懸命に頑張りますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。



新採用教諭

地歴公民 谷村 風哉

この春、新卒で苦小牧東高校に赴任しました谷村と申します。コロナ元年に本校を卒業し、昨年度は教育実習生として受け入れて頂き、そして今年度母校で勤務できることに縁と嬉しさを感じております。

至らない点も多々あるかと思いますが、私自身、後輩達とともに学んでいけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



浦河高校から

数学 曾根 悠介

今年の4月に日高の浦河高校から赴任しました曾根と申します。伝統校である苦小牧東高校での勤務を楽しく過ごさせていただいております。人口1万人程度だった浦河町から町の規模も学校の規模も大きく慣れないところもありますが、自由闊達な生徒たちの心技体をより伸ばしていけるよう励んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



再任用教諭

地歴公民 山崎 範寿

地歴・公民科の山崎です。再任用期間最後の一年間を母校で勤務することとなりました。「自主自立・文武両道」の校風を受け継ぐ「ガタ高」生の今の姿を見ることができて、とてもうれしく思っています。生徒のために、地域のために微力ながら一所懸命に力を尽くしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



枝幸高校から

理科 佐藤 優樹

道北の枝幸高校から参りました、佐藤優樹と申します。教員人生で二つ目の高校が、伝統のある進学校である苦小牧東高校に来ることができたこと、うれしく思います。生徒は勉強も部活動も一生懸命で、驚かされる毎日です。この素晴らしい環境で、生徒がやりたいことを叶えるために力を尽くしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



室蘭聾学校から

事務職員 横内 雅世

今春、室蘭聾学校から赴任しました横内と申します。ガタ高は私の母校でもあり、母校で勤務できることに驚きと喜びを感じております。生徒の皆さんと直接関わることは少ないと思いますが、事務方として学校生活を支えられるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



えりも高校から

英語 松本 公輔

日高のえりも高校から赴任しました松本です。大規模校での勤務は初めてで、そのスケールに圧倒されていますが、歴史と伝統のある苦小牧東高校で教鞭を執れることを大変うれしく思っています。微力ながら生徒の能力の伸長や本校の発展のために尽力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



第1学年の様子



1学年主任 前川 護

今年度1学年主任を担当しています前川護です。保護者の皆様におかれましては、日頃から本校や1学年の教育活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。4月8日の入学式から4ヶ月が経ちました。不安と期待で新生活をスタートさせたのはおそらく生徒たちだけではないはずです。保護者の皆様におかれましては、慌ただしく駆け抜けた約4ヶ月だったのではないのでしょうか。

生徒たちは、前期中間考査や模試、初めての学校祭を終え、ぼんやりとながら自分の現在地を知り、文武両道の苫小牧東高校の雰囲気を感じ、「もっとがんばらなければ」「この学校にして良かった」などと感じていることと思います。1年生の部局活動加入率100%超の数字が象徴するように、ポジティブでアクティブ、明るく素直で元気な生徒が多いのが特徴です。

自主自立の校風のもと、『自由』『自主性』『多様性』『自立』『依存』『協調』について常に自分に問い続ける姿勢を持ち、豊かな人間性、確かな学力、逞しい生命力を育んでいきます。またそれぞれの進路実現に向け、北海道の地区大会であった高校入試から、全国大会である大学・専門学校入試、就職試験に向けて、競い合い、学び合い、支え合って、今後も笑顔あふれる高校生活を送れるよう見守り導いていきたいと思っています。

よろしくお願いいたします。



1年1組 大町 日南

心臓をドキドキさせながら教室入っていた4月から、約3ヶ月が経ちました。バスで登校し、購買でお菓子を購入し、お昼休みは友人とお弁当…と、新鮮で刺激的ではあるものの、慣れるまでは戸惑いや大変さもありました。今ではとても楽しい学校生活となっています。授業や日常の会話を通し、クラスメイトの多様な考えや価値観に触れ、私の見る世界は確実に広がっています。こんな環境下で学ぶことができ、私はとてもうれしいです。

私たちはこの3ヶ月の間に学校祭という大きな行事を経験しました。中学生のときに憧れを抱いていた高校の学校祭を、自分が体験できることがうれしく、全力で準備を進めました。その成果もあって、当日の楽しさと感動は、言い表せないほど大きなものとなりました。今回の

学校祭で得たクラスの団結力を、これからの学校生活でも発揮していきたいです。

しかしこの3ヶ月は楽しい日々だけではなく、前期中間テストや模擬試験で苦い思いもしました。高校のテストの難しさや範囲の広さなどは想像していた以上のものでした。今回のテストで各々つかめた教訓を、夏休み以降の学習に活かし、期末テストや後期に備えたいです。また先生方が行ってくださる個人面談や講習会など、与えられた機会を十分に活用し、進路につなげていきたいと思っています。

今のクラスの一員として過ごせるのも、残り8ヶ月ほどとなりました。勉強に部活と、忙しくはありますが、残された日々が「充実」したものになるよう、これからも頑張っていきます。

担任団



前列左から
松田(2組)、鈴木(1組)、前川(主任)
後列左から
杉田(6組)、成田(5組)、竹内(3組)、武内(4組)



第2学年の様子



2学年主任 佐藤 一正

昨年度に引き続き主任を担当します佐藤一正です。
保護者の皆様、平素より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで、新学年が始まってから早くも5ヶ月が経過しました。
皆様のお子様がどのように学校生活を送っているか、ご家庭でも話題になっていることと思います。学年主任として、この間の経過についてご報告するとともに、今後の展望についてお話しさせていただきます。

まず、お子様たちは新しい環境にも順調に適応し、日々の学びに熱心に取り組んでいます。授業や課題に対する積極的な姿勢が見受けられ、多くの生徒が学業面での成果を挙げています。また、部活動や委員会活動にも一生懸命取り組んでおり、その姿勢には目を見張るものがあります。学校行事においても、特に先日学校祭は大変盛り上がりました。お子様たちが企画・運営に携わり、一丸となってイベントを成功させた姿は、仲間との絆を深める素晴らしい機会となりました。保護者の皆様にも多くのご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、今後は進路実現に向けた取り組みが本格化していきます。進路選択はお子様にとって重要な決断であり、お子様たちがそれぞれの目標に向かって努力し、素晴らしい成果を挙げられるよう、私たち教職員一同も、その支援に全力を尽くしてまいります。具体的には、進路ガイダンスや個別相談を通じて、お子様一人ひとりの適性や希望に合わせた指導を行い、お子様たちの成長を全力でサポートしてまいります。保護者の皆様には、ご家庭でのサポートを含め、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新たなお悩み事や疑問等がありましたら、遠慮なく学校にご相談ください。



2年2組 竹内 吾緒

先輩になった私たちが迎えたこの3ヶ月間は、忙しさ、責任、楽しさなどが入り交じった充実したものでした。

話したことのなかった人たちに囲まれて開始したクラス。今では自分の居場所を作ることができました。休み時間に見られる笑顔が、皆もそう思っていると物語っているように感じられます。

学校祭では、皆、誰かに聞いて仕事を得るだけではなく自ら仕事を見つけて取り組むなど、皆がクラスのことを考えて積極的に仕事を得ようとしていました。これは良い経験であったと私は確信を持って言えるでしょう。この経験が私たちの学校生活をより良くする糧となるように、これからを過ごしたいと思います。

二年生の勉強はより難しくなりました。思い返せば、高校入学時も同じことを感じていました。きっとこれからも、自分の環境のレベルが上がるたびに同じことを思うのだと感じます。私たちも環境についていくためにアップデートしなければなりません。実際、勉強への意識が一年生よりも高まっている人々を私は見えています。努力しようがしまいが、受験は私たちの視界に入り込んできます。

人間に未来予測はできません。しかし、人間、少なくとも私に未来予知はできません。ですから、今を全力で生きることが大切だと思います。不確実な未来が私たちに微笑んでくれるように、その軌跡が宝物となるように、今できることを大切に過ごしていきます。

担任団



左から

佐藤(主任)、永田(1組)、田中悠(2組)、田中溪(3組)、岡本(4組)、土井(5組)、須藤(6組)



第3学年の様子



3学年主任 桜庭 史也

保護者のみなさま、いつも本校の教育活動にお力添えをいただきまして本当にありがとうございます。年度当初にお願いするPTA役員は、毎年多くの方に引き受けていただき大変心強く感じております。今年の学校祭ではPTA販売ブースにおける「うどん」が予想以上の売れ行きで、お手伝いのみなさまからの嬉しい悲鳴？もありました。その熱心に活動される姿から、子どもたちにとってはまさに「親の背中を見て育つ」機会になったと思います。このような場面を見る度に、ようやく日々の学校生活や行事において、コロナ以前の感覚に戻ってきたことを感じる次第です。

さて、高校生活も残り半年となりましたが、生徒たちは進路実現に向けたスパート前に、部局活動に、学校行事に一生懸命に取り組み、大切な想い出を育んでいました。特に学校祭では、それぞれの自分の役割をしっかりとこなし、ゼロからの創作活動を行い、良いものを創り出すために、最後の最後まで諦めず、挑戦し努力し続ける姿がみられ、「ああ、この子たちはこんな力を秘めていたんだ」と3年間の成長を感じ取った次第です。そして、今後のそれぞれの自己実現に向けた歩みに、大いに期待できる出来事でもありました。

私たちの学年は、新カリキュラムとなって初めての大学受験となります。大学側も手探りの部分も少なくありません。でも、よく言われるのは新体制の初年度はピンチでもありチャンスでもあるというものです。そうであれば、この状況をチャンスと前向きに捉え、子どもたちが自分の力を信じ、その一歩を踏み出せる様、御家庭と共に精一杯頑張りたいと思います。最後までどうぞよろしくお願いいたします。



3年3組 坂下 凜

私達が「最上級生」「受験生」と呼ばれ始めて約4ヶ月、その呼び名が私達の意識を変えさせていきました。

この4ヶ月の大半は、それぞれが生徒会活動や部活動に励み、高校生活一番の輝きを見せていました。自分だけでなく、周りの人の活躍を讃え、学年全体がひとつになっていた気がします。先日行われた学校祭では、何でも「高校生最後の」という枕詞が付くさみしさを感じながらも、各クラス最高の企画を作り上げることができました。3年生の意地が見られた結果となりましたが、それぞれのクラスが結果以上の感動と達成感を得られたことと思います。閉祭式ではたくさんの涙が見られました。きっと多くの人が、テーマの通り「この先もずっと忘れない学校祭」になったことでしょう。

さて、学校祭も終わり、一段落つきました。私達は受験生です。勉強しなければなりません。この現実を受け止め、私達の3フロアは今までは違った緊張感が感じられるようになりました。夏休みが明けると、推薦などに直結する定期考査が待ち受け、今まで以上に受験の空気感が高まるでしょう。たくさんの講習や一日がかりの模試などに弱気になることもたくさんあります。でも、「学校に来れば友達と笑い合える」「一緒に頑張れる仲間がいる」という、ささやかな楽しみが感じられるこの学校だからこそ、また頑張ることができるのです。

そして私たちには「卒業」という大きなステージも近づいています。勉強はもちろん大切ですが、今の仲間と過ごす時間が当たり前ではないことを心に刻み、充実した学校生活を送っていききたいです。いずれ、それぞれの道を歩んでいく私達ですが、2年4ヶ月で培った学年の団結力と、最高の学校祭を作り上げたクラスの絆を武器に、一步一步進路実現に向けて進んでいきたいと思います。

担任団



右から

桜庭(主任)、奥(1組)、渋谷(2組)、小出(3組)、
米川(4組)、林(5組)、越後(6組)



第71回 学校祭

7月5日(金)～7日(日)

BACK 東 THE FUTURE

今年度は、3日間天候には恵まれませんでした、各クラスが準備から知恵を出し合い、自由企画やステージ発表にクラス一丸となって取り組み、コロナ以前の規模で学校祭を行うことができました。また、初めてキッチンカーを採用しました。



各学年最優秀クラス

- ルーキー賞 1-1 (ガタCONFIELD TOMAKOMAI 2024)
- セブンティーン賞 2-1 (青鬼)
- ガタデミー賞 3-1 (ライオンキング)

各部門1位クラス

- 学級旗部門 3-1
- ステージ企画部門 3-1
- クラスPR部門 3-2
- 自由企画部門 3-6





PTA行事

令和6年度PTA環境整備委員会花壇造成 6月4日(火)

今年は薄陽が差し込む絶好の花壇造成日和の中、保護者21名と教員5名でプランター作りを行いました。例年見頃を迎えた頃に、苗花が鹿に食べられる被害が多発します。そのため玄関前のロータリーには鹿が好まないマリーゴールドを中心に配置しました。また花壇にはチェーンを設置し、鹿が嫌がる高周波を発する機器も購入しました。例年通りインパチェンスやペチュニア、ペコニアを購入し、今年は新規にビオラも購入しました。生徒にとっての心の癒やしになるよう、すくすく育ってくれることを祈るばかりです。協力していただいた保護者の皆様、ありがとうございました。



令和6年度 PTA学校祭協賛事業 7月6日(土)~7日(日)

今年の学校祭は「蝦夷梅雨」を思わせる雨模様の天気となりました。

学校祭協賛事業では、今年も本校の校章と校歌のフレーズが入った「ガタタオル」、校章の入った特注「ガタ饅」「ガタどら」「ガタランド」、さらに今年から「ガタうどん」を販売しました。早朝から校地内に本校の「のぼり」を立て、約30名の保護者の方々が「はっぴ」を着用しながら販売を行いました。「ガタ饅」「ガタどら」「ガタランド」は1日目に完売し、「ガタうどん」は両日で690杯を売り上げる大盛況でした。

収益金(198,954円)は全額生徒会費として寄付しました。ご協力を頂いた皆様、ありがとうございました。





全国大会出場者の紹介

2024年7月25日から29日に開催された全国高等学校総合体育大会自転車競技大会のロードレースとトラック競技のスクラッチに出場しました。

ロードレースもスクラッチもレース開始直後からこれまで体感したことのない程のスピードでレースが進み、人の密度も道内レースとは比べ物にならず転倒も多発しており自分は何もすることが出来ず、ロードレースはリタイア、スクラッチは予選落ちという不甲斐ない結果に終わってしまいました。

この大会は北海道予選をギリギリで突破しての初めての全国規模の大会でしたが、全国とのレベルの差を強く感じる結果となってしまいました。なので今後は今よりも1日1日を大切にトレーニングに励んで行きたいと思っています。

最後に日々のサポートや道具の準備などを手伝ってくれた家族と、高体連の登録や会場でのサポートなどに尽力してくれた先生方にこの場を借りて感謝します。



自転車

1年1組 橋本 貴志

私は8月17日から20日佐賀県で開催された第92回日本高等学校選手権水泳競技大会に出場しました。今年も100m、200m背泳ぎの2種目に出場することができました。去年に引き続き全国の高校生が集まる舞台上で泳ぐことができ、自分自身の強みや改善点などを見つめ直す良い機会となりました。また、世界で戦っている選手たちの泳ぎも見ることができ、刺激の受けた大会になりました。

結果は自己ベストには及ばず、悔しさの残るものとはなってしまいましたが来年の夏に向けて、全国で戦える選手になるためにはどんな練習をするべきかを確認することができました。

来年は3年生となり高校生の集大成となるので、全道優勝、そして全国大会での自己ベストを目標に練習、そして勉強と両立できるように日々頑張っていきたいと思っています。インターハイ出場にあたって指導して下さったコーチ、いつも応援してくれる家族、そして引率して下さった田中先生本当にありがとうございました。



水泳

2年2組 牛田 真奈

皆さんこんにちは、陸上部の小森宥輝です。僕は7月28日から8月1日にかけて福岡で行われたインターハイに出場しました。日々の練習を支えてくれた先生やチームメイト、そして応援してくれたみなさんのおかげで、この舞台上立つことができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。福岡では全国の強豪選手たちの練習している様子や、本番で投げている上手な選手たちの投擲を真近で見ることができたのでとても良い経験になりましたし、まだまだ成長が必要だと痛感しました。僕は福岡では自己ベストを更新することができず、あまり良い結果を出すことができなかったのですが、今回の経験を活かして、上手な選手を参考にしながらこれからの練習で自分の弱点を克服して自己ベストを出せるように練習したいと思います。来年の最後の高体連で良い結果を出して、インターハイに出場できるように、これからも技術向上に励み、精一杯努力していきます。今後ともご声援のほど、よろしくお願いします。

陸上



2年4組 小森 宥輝

放送局は、3年生2名、2年生3名、1年生5名の計10名で活動しています。普段は昼休みの放送や集会の音響などを担当していますが、放送局には他の部活動と同様に、“大会”というものが実は存在しているのです。一年に二つ、NHK杯と高文連とがあり、どちらも、“個人種目”と“団体種目”的なものがきちんと存在しています。“個人種目”はアナウンス部門と朗読部門、“団体種目”はドキュメンタリー部門とドラマ部門の二つずつあります。

今回私たちは、この団体種目の中のラジオドラマ部門にて、全国大会へ進出することができました。7月下旬に行われた全国大会では各地から集まった優秀な作品を鑑賞することができ、とても刺激的な充実した4日間でした。今回の経験を活かして、また来年も皆さんに良い結果を報告できるように、精進していきたいと思います。これからも放送局を何卒よろしくお願いします。

放送局



3年3組 大瀧 絆菜
2年3組 晴山 能

私は、7月31日から8月2日にかけて岐阜県羽島市行われた第48回全国高等学校総合文化祭演劇部門に講評委員として参加してきました。講評委員の仕事は、全国各地から勝ち上がった12校の演劇を3日で観劇し、その上演で揺さぶられた自分の感情を言語化し、みんなと共有することです。1つの上演終了後の20分の休憩時間を使って討論し、夜宿舎に戻ってからその内容をまとめた講評文を書きます。

わずかな時間で、自分の感情を言葉にすることは、そしてそれを共有することは本当に難しいです。上手く伝えられずもどかしい私の気持ちを他の講評委員は傾聴し、共感してくれました。最初こそあんなにギクシャクしていた彼ら彼女らと、最終日は別れるのがつらかったです。

自分の感情に対して「どうしてこう思ったんだろう」と考えてみたり、自分の経験と重ねてみたりするなど新たな演劇の見方を獲得できました。全国大会が決まったときは不安でいっぱいでしたが、今は行って本当に良かったと感じています。

演劇



弦巻菜優さんは、優秀生徒講評委員として表彰されました。

2年5組 弦巻 菜優

PTA 振興会役員一覧

PTA役員

会長	後藤 哲人 (2-1)
副会長	今野希世美 (1-4)
副会長	山家 亜由 (1-6)
副会長	大塚 夏実 (2-4)
副会長	中島 真希 (2-5)
副会長	櫻元 朋子 (3-2)
副会長	眞壁由美子 (3-3)
副会長	澤田 慎也 (校長)
監査	小田 美香 (2-2)
監査	堀内 佳代 (2-2)
1学年委員長	山谷 芳則 (1-6)
2学年委員長	前川 美里 (2-4)
3学年委員長	面田 素子 (3-6)
研修委員長	中島 真希 (2-5)
生徒指導委員長	藤本真由美 (3-5)
環境整備委員長	丸山 克子 (3-4)
広報委員長	金澤 俊 (1-5)

PTA事務局

事務局長	南川 亮一 (教頭)
事務局員	福田 宗憲 (事務長)
	石川 竹博 (総務部長)
	上村 卓 (総務部)
	橋本 弘光 (総務部)
	奥 道明 (総務部)
	土井 徹 (総務部)
	松田 啓史 (総務部)

広報委員会

永田 聡子 (1-1)
今野希世美 (1-4)
金澤 俊 (1-5)
佐々木修司 (2-2)
小川 和江 (2-5)
兼松 利江 (3-1)
田中 朗子 (3-1)
渥美佳奈子 (3-6)
佐々木美有希 (3-6)

環境整備委員会

長浜理恵子 (1-1)
坂本菜都美 (1-1)
小西 恵 (1-2)
曾賀 綾子 (1-2)
角谷 知巳 (1-2)
深谷めぐみ (1-2)
小本 千春 (1-3)
長岡真裕美 (1-4)
鎌田 幸子 (1-4)
木村 直美 (1-4)
佐々木リエ (1-4)
河合友美子 (1-5)
関 泰博 (1-5)
中村やよい (2-1)
小田 美香 (2-2)
中山紀美代 (2-4)
岡崎 友和 (2-5)
吉田 明代 (3-1)
堀内 佳代 (3-2)
櫻元 朋子 (3-2)
眞壁由美子 (3-3)
丸山 克子 (3-4)
富居 貢 (3-4)
石川美智代 (3-4)

生徒指導委員会

境 愉美 (1-4)
山谷 芳則 (1-6)
後藤 哲人 (2-1)
近藤 恵 (2-4)
大塚 夏実 (2-4)
佐々木久美子 (2-5)
大宮 久司 (2-6)
藤本真由美 (3-5)
藤田小百合 (3-6)
面田 素子 (3-6)
川村亜希子 (3-6)

研修委員会

島田 円 (1-3)
細川 理恵 (1-4)
山家 亜由 (1-6)
石田 義人 (2-4)
前川 美里 (2-4)
小林 一恵 (2-4)
中島 真希 (2-5)
北村 愛 (3-1)
佐藤 里実 (3-1)
濱島かおり (3-2)
鈴木 幸江 (3-4)

振興会役員

会長	眞壁由美子 (3-3)
副会長	土橋 聡子
理事	加藤 奨
理事	藤井希美子

東風日記抄

娘が東高に入学して4カ月経った。大量の荷物を抱え、自転車で登校。大変そうだが楽しそうだ。

夏休みまでの高校生活を振り返るべく、娘とのLINEを見直してみた。

しょっぱなから忘れ物三昧。「国語の課題忘れたああ」「教科書がない」しまいには「ロッカーの鍵忘れた」何をやってるんだか。大丈夫かしら？

昼時になると「弁当うまかった。肉多めさいこー」「玉子焼きめちゃうま」そんなことでいちいち連絡してくるな。でも悪い気はしない。

学校祭。準備の段階でいろいろと思うことがあったようで、ぐだぐだ愚痴る。「文句があるならおまえがリーダーシップをとれ」と父親に一蹴。人間関係、難しいね。

夏休み。講習に行き、部活に行き、楽しくやっているよう。よい先輩がたくさんいて、勉強の仕方なども教えてもらっているとのこと。ありがたいことだ。

東高は勉強も部活も一生懸命にやるのが基本。周りがそうなので自分も引っ張られているよう。良い学校に入学したと思う。立地も環境も素晴らしい。目標に向かって3年間悔いのないように過ごしてほしい。スマホとの付き合い方はもう少し考えたほうがいいかな？

最後に先生に感謝！夏休み前だというのに、もう2回も面談したという。ありがたい反面、働き過ぎではないかと心配になる。

これからもよろしく願いいたします。

一人っ子の息子、何をするにも初めての経験の親子。息子のおかげで沢山のひととの出会いがあり、学校の行事なども出来る事は携わらせていただきたいと手をあげ、読み聞かせや学級レクなど、楽しい思い出を作らせて頂きました。初めての受験では、自分が受験した頃とは全く違い、戸惑う事も多く、子供の成績に一喜一憂する私。それでも東高校に行きたいとの息子の気持ちはぶれる事無く、淡々と勉強し見事合格！晴れ晴れと入学式を迎え、優しい仲間や先輩に囲まれ楽しい高校生活を送っています。

しかし入学したと思ったらもう次の進路…確かに高校の3年間はあっという間です。

幸いにも息子には幼稚園の頃から持ち続けている夢がある。そのために何が必要で、何をしたら良いのかを見通して進路も選択することとなるでしょう。私も小さい頃よく「夢は何？何になりたい？」と聞かれたけど、本気で「これ！」と思った事はなかったと思います。だからそれに向かっての挑戦も何もしないまま社会人になり、今この歳になって後悔する事もあります。

昔と違い今は情報量が多いので、夢へ近づく方法はいっぱいあると思います。人のお役に立てる夢を持っている息子を尊敬します。「なれるかな？」「なれたらいいな」と夢を応援しつつ、私のこれからの人生、息子が巣立った時、抜け殻にならないよう(笑)、何かに挑戦し、生き活きと老後を送れる自分でありたいと私の夢も広がります。

生涯の友と今しかできない事をいっぱい楽しみながら、青春を謳歌し、悩んだ分、学んだ分、価値ある人生になる事を願っています。

ついこの前入学式を終えたと思っていたら。もう2年生の夏休み…。早いです。彼は入学当初から、「東高は楽しい♡、楽しい♡」と毎日言っています。

自分の高校時代、はたして学校が楽しいと思ったことが、あったのかと考えると真逆です。本当に自分に合った学校に入学できたんだと、嬉しく思います。

中学生までは1～10までガミガミ言っていた私ですが、高校生になったのだから少しは自分で考える力や判断力をつけなければと思い、言いたいことは半分呑み込もうと決心していたのですが…。

勉強はしているかしていないかもわからず、部活が終わってそのまま塾へ、帰ってきて話すのは返事のみ、塾へ行っても成績伸びず、学校のプリントも出さず、字は小2、毎日遅刻ギリギリで登校、保護者面談ではやっぱりね…と思って悲しくなり、などなどいろいろありますが、我が子はやっぱりかわいいです。

こんな思いもあと少ししかさせてもらえないんだ、と思うと、もっともっと、叱るのも、お弁当作りも、汚れた洗濯物も楽しもうと、一瞬、ほんの一瞬思います。

たくさんの先生・友達に恵まれ本当に幸せな毎日を送っています。

理系か文系か悩んでいたとき先生に、最後まで悩みに付き合っていたおかげで今は理系に行って良かった!!と納得して勉強しているようです。

あとは、自分の足でしっかり生きていけるように、残りの高校生活で人間力を磨き自分の夢をひとつずつ掴みとってほしいなと願っています。

最後に。ダメダメ息子がひとつだけ出来ることがあります。【お弁当箱を水につけておくこと】です。入学してからお弁当箱を全く出さない息子に、「明日から水につけておかなかったら、そのままの状態でご飯入れるから!!」と一喝。私は本当にそれをする恐ろしい母親だと息子は知っています…。

長女も次女も、コロナ禍で高校生活が始まった。

長女は他校に入学、3年間コロナ禍だった。学校行事は3年生になって初めて学校祭が行われたが、生徒だけで行われ、保護者が見に行くことはできなかった。保護者が学校行事を見る機会もPTA活動も一度もないまま、長女は高校を卒業した。

次女は東高に入学し、1年生のときから学校行事もPTA活動も行われた。長女のときは何もなかったのに、PTA活動に参加できたことも学校祭を楽しめたこともとても嬉しかった。

学校祭では、生徒さんたちが何日もかけて手作りしたものや絵などを見て、とても感動しました。クラスのブースで楽しみ、ステージ発表ではレベルの高さに驚きました。おまんじゅうやタオル屋さんの売る側に参加できたことも、楽しく、良い思い出になりました。

PTA活動で「植えても鹿に食べられちゃうのかな…」と周りの方々とおしゃべりしながらお花を植えたことや（環境整備）、学校祭の写真をたくさん見れたこと（広報）。昨年度はPTA研修で小樽へ行き、大学見学にランチ、小樽の街を歩いたりと盛りだくさん。これらも全て、良い思い出になりました。

娘の高校生活はあと半年。娘と一緒に日々を大切にしながら過ごして行きたいと思います。